

紙上  
診察室

三浦 恭志さん



「すべり症」と診断 手術は?

**A** すべり症は背骨の関節や椎間板の変形などにより、背骨がずれる病気で、大きく分けて二種類あり、一つは主に加齢による椎間板の変化が原因となる変性すべり症。もう一つは、子どもの頃に激しいスポーツなどで疲労骨折した部分が分離し、そこか

**Q** 起床時に足先のしびれや、足の付け根の痛みなどがあり、「すべり症」と診断されました。悪化させないためにはどうしたらよいのでしょうか。手術は必要ですか。  
(女性、74歳)

\*

まず、服薬など保存療法を

まず、服薬など保存療法をまず行なう。治療はまず、鎮痛剤の服用や、炎症や腫れを取るための注射などの保存療法が一般的です。その上で、腹筋や背筋を鍛える体操や、柔軟性を高めるストレッチを行います。薬を併用しながら、こうしたりハビリを続けると、かなりの効果が出ることも多いです。

手術するかどうかは、症状や日常生活への影響の度合いなどから判断します。脊柱管狭窄の場合は広げる手術。腰痛がひどかったり、神経の出口となる椎間孔まで狭窄していたりしたら、骨のずれ自体を戻し、固定する手術法も選択肢となります。手術を検討するようなケースは、脊椎の専門医に相談することを勧めます。

(東京腰痛クリニック院長)

健康

生活

家族  
エッセイ  
SDGs

日月火  
水木金土

介護・シニア  
家計  
子育て  
衣食住



紙上診察室への投稿は、〒住所、氏名、年齢、電話番号(紙面では匿名)を書き、生活部(宛先は左面左下)へ。

からだの悩みQ&A

専門医のアドバイスを検索!